

令和2年度 全国教員夏季研修会

各研究部で予定していた
令和2年度全国教員夏季研修会の研修内容とその思い
各研究部の活動状況や次年度に向けて



日本私立小学校連合会

〒102 - 0073
東京都千代田区九段北4 - 2 - 25
私学会館別館6階
電話 03 (3261) 2934

国語部会

子どもとともに創造する

国語授業

安達 真理子 (立教)

本年は、新学習指導要領が全面実施され、令和二年度版の新しい教科書を使って、新しい授業がスタートするはずでした。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業研究がますます盛んになってこようとした矢先、長い歴史を持つ日本私立小学校連合会全国教員夏季研修会までもが実施できなくなってしまうました。これ程の厳しい事態を、誰が予測できたでしょうか。年に一度、

全国の私立小学校の先生方と、実践を持ち寄って積極的に議論し、親交を深めるこの三日間が、いかに意義深いものであったかを痛感しています。このような状況にあっても、否むしろ、このような状況だからこそ、子どもたちの学びの姿や育ちの様子を基に、子どもとともに自由な発想で授業を創造していきたいものです。

さて、研修一日目は、ウェスティン都ホテル京都を会場として、研究授業を行う予定でした。授業者は、原野のり子先生(光華)です。授業内容は未定でしたが、助言者として、谷本寛文先生(京都光華女子大学准教授)をお招きし、授業を通して、参加者が共に学び合う観点等をご指導いただきたいと考えていました。

二日目の午前は、低学年・中学年・高学年に分かれた「授業づくりワークショップ」です。教材研究だけでなく、学年に応じた学級経営も含め、国語授業づくりのポイントを、参加者同士で学び合っています。コーディネーターは、低学年を藤平剛士先生(相模女子大学)、中学年を野村真一先生(関西学院)、高学年を鈴木順子先生(青山学院)にお引き受けいただいています。コーディネー

ターの先生方には、次年度も有意義な三時間となりますよう、再びご担当いただけますことを願います。

二日目の午後は、例年、低学年・中学年・高学年の三分科会で、各地区から実践提案をしていただいています。提案者は、以下の予定でした。

低学年分科会は、中川洋先生(仁川学院)と濱崎晴美先生(長崎南山)です。中学年分科会は、渡邊知慶先生(学習院)と田中史彦先生・渡部彩子先生(桐蔭学園)です。高学年部会は、佐藤浩太郎先生(桐光学園)と野中太一先生(暁星)です。有意義な発表と活発な協議が行われることを、楽しみにしていました。

三日目は、二瓶弘行先生(桃山学院教育大学教授)に、ご講演いただくようお願いしていました。二瓶先生は、三年前まで筑波大学附属小学校教諭であられ、三十数年間にわたり、小学校現場で国語授業の開発をなさり、全国の先生方に向けて数多くの提案授業をなさってこられた先生です。国語授業に関するご著書は数十冊に上る国語授業のプロ。二瓶先生から実践のお話を伺う機会が失われ、無念で仕方ありません。

来年度は、東京地区での開催が決

まりました。その結果、一日目の研究授業と三日目の講演は、変更せざるを得ません。先生方には今回ご快諾いただけましたことを深謝し、次年度に向けて、新たに始動していきます。来年こそ、安心して、充実した研究が行えますよう、精一杯準備させていただきますと思います。

社会科部会

本物に触れて、

魅力的な授業を

神田 孝史(追手門学院)
前川 和裕(仁川学院)
東原 秀郎(国立学園)

東京都をはじめとして、各都道府県の先生方におかれましては、皆様、未だ終息の目途の見えないコロナへの対応で大変なご苦労をなさっていることかと思えます。

さて、今回のコロナ禍のために、夏季研修会も中止となってしまいました。社会科でも、全国委員長である国立学園・東原先生の指揮の元、

京都の先生方が中心となって、講演会やフィールドワークの企画を積極的に立案してくださり、当日に向けて準備を進めてまいりましたが、皆様と共に学ぶことどころか、お会いすることすらもできなくなり、大変残念な思いでいっぱいです。

社会科の良さというところ、やはり本物・実物を見る、体験することに尽きると思います。動画や写真資料が充実し、社会科の指導はしやすい時代にはなりましたが、やはり実物に触れた時のワクワクは別格で、これは大人になっても変わることはありません。そのワクワクと熱量を落とし込めた時の授業は、子どもたちを夢中にさせるものとなり、こういった授業を積み重ねていくことが、我々社会科教員の務めであると考えています。

今年度も先生方にワクワクして頂ける内容を、たっぷり準備しておりました。勉強して頂く内容について深いところまで練りあげたのはもちろんのこと、昼食場所の選定や、暑い時期のことでもありますので、できるだけ涼しく移動して頂くルートを模索するなど、細かいところまで計画・立案しております。それ

らが見現できなかったのは大変悔しいことです。しかし、くよくよしても始まりません。しっかりと気持ちを切り替えて、この悔しさを次の機会に全てぶつけて、さらに良いものを先生方にご提供させて頂けるよう、邁進してまいります。次回の西日本での社会科部会の開催を、どうかご期待ください。

一日も早いコロナウイルスによる災害の終息を心からお祈りするとともに、また先生方と一緒にあちこちをフィールドワークしながら共に学べる日が迎えられることを楽しみにしております。それまで、どうか皆様ご自愛くださいませ。

算数部会

「深い学び」のある

算数授業を目指してⅢ

時川 郁夫(森村学園)

このテーマでの研修会三年目。授業二本も三年目を迎える予定でした。昨年二本の授業、記憶に新し

いところではないでしょうか。

クラスの子も達とのやりとりの中で「アンパンチからの『小数倍』」を提案して下さった昭和学院の中村潤一郎先生、初めて出会った森村学園の子も達と九十分間「三浦大根を通して『算数における情緒』」にチャレンジした清泉の守屋先生とそれを受け止めて正面から向き合った司会の成城学園の高橋丈夫先生、コンセプトの異なる二つの授業・協議会から学んだことは大きかったと思います。

「授業二本」の実現には「より良い授業」を目指す多くの方々の熱意が不可欠です。西日本地区の難しさはその地区の広さにあります。その年の会場がどこになるかによって大きく状況が異なります。京都開催予定だった今年、京都を中心に「授業」の可能性を探ることから始めました。いくつもの学校・何人もの方々が検討を重ねて下さった中で、担って下さることになったのが京都文教短期大学付属小学校、さらに関西大学初等部でペーパーレスの授業を実践していらつしやる古本温久先生でした。最終日の講演は、私学の算数授業についても研究を進めていらつしやる、ICT・メディア・プログラミ

ングがご専門の国際大学准教授豊福晋平先生にご登壇いただくことになっていました。今回のコロナ禍対応で戸惑う世の中であって、休校中のオンラインの活用についても広く提言をされている先生ですから、タイムリーな示唆・ご助言をたくさんいただけたはずです。

研究発表(実践報告・ワークショップも、西日本・東京・関東各地区から一本ずつの発表を予定していましたが、充実した研究研修活動が続けいらつしやる九州地区・北海道東北地区からの発信も是非いただきたいと折に触れ話題にしていたつもりなのですが、私の力不足で実現していません。勝手ながら次年度以降の前向きな検討を願ってやみません。もちろん受信して学ぶことも大切なのですが、発信する経験を通しての学びはさらに深いと思っています。「主体的に学ぶ」授業を目指す教師も主体的でありたいと願いつつ…。

来年は東京開催が決まりました。一年延期で京都開催であれば、今年度ここまでご尽力いただいた西日本地区の方々と共に運営を担当したいと考えておりましたが、叶わぬ展開となりました。これから三年間の全

国委員長を、学習院初等科の鈴木純先生にお託しすることになりました。よろしく願います。

コロナ禍下、授業スタイルのみならずカリキュラムについても検討を余儀なくされました。その中にあって「主体的・対話的で深い学び」を大切にした授業は、難しい場面もあったかと思えます。ICTも含めた対応を通して気付いたことにもコロナ後に活かせることが少なくないはずです。コロナ前より豊かな授業を目指して進みましょう。子ども達とともに。子ども達のために。

理科部会

おもしろい理科の授業をつくる

天井 比呂(雲雀丘学園)

理科部会では「おもしろい理科の授業をつくる」を研究主題として長きにわたりたくさんの先生方の発表を軸に研修が行われてきています。毎回二〇を超える発表があるので、これまでの発表は五〇〇を優に超え

るのではないかと思われれます。

今年もたくさんの発表を期待していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で残念ながら今年度は見送りとなってしまいました。

予定していました計画では一日目は、石浦章一先生(同志社大学医生命科学名譽教授)による講演。演題は「大学から見えた探究型人材の必要性」で、「大学で伸びる人材は、粘り強く課題をやり抜く経験を持つ学生である。その育成に重要な小学校理科の役割についてお話しいただき学習指導要領改訂に伴う学習の仕方について研修させていただきます。

三日目は、金子新先生(京都大学准教授)を講師としていました。京大発ノーベル賞研究を活用した「がん免疫の再生」について、iPS細胞研究所の基礎研究と臨床開発を紹介していただき「がん免疫とは何か、iPS細胞とは何か、二つのノーベル賞研究はがん治療にどう役立つのか」というとても興味深いお話が聞けるはずでした。

三日目の午後にはオプシオンの巡検を計画していました。計画は次の通りです。

八月二〇日 京都大学iPS細胞研究所↓京都大学博物館↓びわ湖畔にて宿泊・八月二一日 琵琶湖博物館↓京都駅お昼頃解散)

残念なことこれからの西日本の計画を実施することができませんでした。理科部として、外出自粛期間中は、まとまった活動は行っていませんでしたが、各校で模索しながらWEB授業などを行っていることなどの情報を聞いていました。

また、この六月二〇日に国公私立の理科教員三〇名が、東京地区からの呼びかけで「新しい学校生活様式での理科学習」というテーマでオンライン研修会を行いました。理科室での実験の仕方や成績の出し方などについて、情報交換が行われました。分散登校中の学校や、すでに全員登校が始まっている地域で、意識の差もあるように思われました。各校の実情の中で、ベストを見つめるための各校の取り組みを知ることができ、参考になることも多く、実りのある研修会になりました。

今後もこのような研修会が増えていくのではないかと思われれます。来年度の東京での研修会では、それぞれの取り組みの発表も多くなる

のではないかと思います。新しい生活様式の中でどのように子どもたちに理科実験や観察をさせていくのか、その中で面白い授業がどう構築されていくのかを聞くことができるとは思いません。

東京地区の先生方にはいろいろとお世話になるとは思いますがよろしくお願いいたします。実りある研修会になることを願ってやみません。

音楽部会

山崎 菜央(京都女子大学附属)

先生方におかれましては、新しい生活様式となり、音楽の授業も制限されることが多く、試行錯誤の毎日をお過ごしのことと思います。

今年度は京都で全国の先生方とお会いできますことを楽しみにしておりますが、中止となってしまうと残念でなりません。少しですが、計画しておりました内容をお知らせ致します。

一日目は「狂言」について研修をさせて頂く予定でした。京都での開催

に鑑みて、京都の狂言大蔵流の名門「茂山千五郎家」二世七五三の次男でいらっしゃる茂山逸平様他一門の方々をお招きし、狂言について学ぶ予定でした。小学校課程の中には関係する教科もあるので良い経験になればと計画しました。内容は「狂言の歴史」・「狂言とは」・「狂言の実演鑑賞」・「狂言の体験」など二時間半の予定でした。また、ご子息の茂山慶和君は京都聖母学院小学校の生徒

さんで、当日お父様と一緒においで頂き、実演では登場していただく予定でした。もちろん既に舞台には立っていらっしゃいます。私学には色々なプロの芸術家のご家庭も多く、小さい頃からプロの演者として活躍している児童もいます。学校生活とプロの演者との両立をどの様に捉え生活しているのか。また親としてプロの道を歩む子供を育てる上で気をつけていることなどもお聞きできればと思っておりました。

二日目は、作曲家・地歌箏曲家でいらっしゃる佐藤岳晶氏(京都女子大学准教授をお招きし、「ともに学ぶ・奏でる近世邦楽(箏・三味線)と西洋音楽」複言語教育時代のバイ・ミュージカリティ」というテーマで

音楽教育での多様な音楽の学習と、外国語教育の最前線である複言語教育を絡めたパネルディスカッションや西洋音楽と近世邦楽の両方を取り入れたワークショップなどを計画しておりました。

三日目は、バイオリニストの石上真由子さんをお招きし、「嫌い」を「好き」に変える」というテーマでお話をいただく予定になっておりました。

石上さんは大小様々な演奏会に精力的に取り組まれておられます。特に小さめで聴衆との距離の近い演奏会においては、素晴らしい演奏だけでなく、聴衆との対話の中から彼女の音楽への向き合い方を垣間見ることができるような機会を提供してください。さるよう個人には感じています。

今回、「嫌い」を「好き」に変える」というテーマをご提示いただいた際、とてもワクワクしたのを覚えております。そして、「嫌い」と「好き」とはいったいどういうことだろうと自然に自問自答している自分に気づかされました。もし研修会が実施されていたら、参加者の感じ方や考え方を最大限に尊重したうえで、演奏ならびに言葉を用いた対話

を通し、皆で主体的に感じ、考える場となったのではないだろうかと推察しております。

以上、京都私小連音楽部会のメンバーを中心に充実した三日間となるよう計画しておりました。来年度以降はまた京都以外の場所での開催となりますが、今回の研修内容をまたの機会に京都で開催し、全国の先生方とともに学べますことを願っております。

図工部会

伝統から発見する

五感を使った表現との出会い

前田 真偉子(城星学園)

今年度の夏季研修会では、「伝統から発見する五感を使った表現との出会い」をテーマに日本の伝統的な文化から、造形表現について学びを深める機会にしたいと考えておりました。京都の町に出かけ、季節の移ろいに心を向けることや日常の中の美しさに気づくことに立ち返るひと

時になれば、という思いからフィードワークの計画をしております。研修会は残念ながら中止となりましたが、会場・講師の方からもまた改めて機会があれば是非お越しく下さい、という言葉をいただきました。そこで、予定していただきました会場を紹介させていただきます。

まず、散策に赴く予定だったのは、京都に本店を構える香老舗「松栄堂」です。江戸時代に伝わったお線香の製造技術が、今では一部機械を取り入れているものの、当時と変わらぬ製法が受け継がれて作られています。伝統的な手法での製造工房と日本の香り文化の情報拠点を目指して作られた「薫習館」を見学することができます。自分の好みに合わせた匂い香づくりを体験し、小学校の造形教育ではあまり着目されない、嗅覚を研ぎ澄ませて活動に向かいたいと考えておりました。

もう一ヶ所訪れる予定だったのは、京都・御所西に位置する江戸時代の学問所址に幕末から明治にかけて再建された数寄屋建築と庭園のある「有斐斎弘道館」です。弘道館は、二〇〇九年に取り壊しの危機にあっ

たところを有志による保存活動が実を結び、再興されました。日本文化による人間育成の場として再興された現代の学び舎で、有職菓子御調進所「老松」の太田達さんを講師にお迎えし、京菓子づくりの体験をするのを楽しみにしております。

コロナウイルス感染症の影響での臨時休校は、ごくあたりまえの日常生活の尊さに改めて気づく機会となりました。学校が再開され、子どもたちは、造形活動に今まで以上に生き生きとした表情をみせて励んでいます。

各地区での研修会も中止となり、私学の先生方と顔を合わせてお話しする機会がなくなってしまうしました。誰もが経験したことのない、このコロナ禍でオンラインでの授業などいろいろな取り組みをされてきたことと思います。このような環境にあつて子どもたちとどのような造形教育で、どんなことができるか、それぞれ先生方が考えていらっしゃるかと思います。来年度の研修会でお会いできた折には、皆さんと様々な取り組みについて意見交換できることを心待ちにしております。

体育部会

令和二年度体育部会の研修内容 容と思ひ、次年度に向けて

綾田 満成（ノートルダム学院）

令和二年度の体育部会は、実技研修として、自分で体と心を「つくる」整体子どもが、自分自身の体を知り、自分で体と心を「つくる」体育指導を目指してもらうために、anab株式会社フィットネス整体CARADADA代表の小菅美由起先生をお招きし、体を「つくる」というものがどういふことなのか、参加者の先生自身が体験していただき、その体験を通じて、普段の指導に活かしてもらえる予定でした。

実践報告としては、西日本地区の、奈良学園小学校の古田浩大先生が「リズムでつなぐ体づくり運動」こちなさを改善するウォーミングアップ、東京地区では、雙葉小学校の谷本久典先生が「焙烙玉ゲーム」、関東地区では、カリタス小学校の山本晃弘先生が、「体育教育の

本質」を問いつづけて」と題しそれぞれが、報告をされる予定でした。以下にそれぞれの先生方のコメントを載せます。

古田先生：体育の授業中になわとびですぐに引っかかってしまう児童や、跳び箱が跳べない児童に対し、「1、2、1、2：」や「トン、トン、トン：」というようなかけ声をして、かけ声と動きが噛み合わない姿が見られる事があります。子どもたちが抱える運動のこちなさを改善する為には、リズム感を鍛える事が必要です。リズム感が育まれば、なわとびや跳び箱運動だけでなく、様々な運動の技能が向上すると予想できます。

リズム感を鍛える手立てとして、今回はスポーツリズムトレーニングにおける「リズムジャンプ」（音楽をかけながら様々なリズムに合わせてジャンプし、リズム感を養い、体を移動させる運動）を用いた授業の実践発表をデータや映像を見てもらいながら発表する予定でした。

谷本先生：低学年のネット型のボールゲームとして、元熊本大学教育学部附属小学校の西村正之教師が開発した「ボンバーゲーム」を、更に

工夫し実践した授業の実践発表を行う予定でした。「焙烙玉ゲーム」は、ネットを挟んで、焙烙玉を相手陣地の守備の薄いところに投げ入れて、得点をねらうゲームです。どのような守備や攻撃が有効なのか、低学年の児童なりに思考、判断を積み重ねます。このゲームの面白さや、児童の思考、判断の変容を発表し、更に

よりよい実践に繋がられるように意見交換ができればと考えておりました。次の機会にて発表ができればと思います。

山本先生：「体育教育」の第一義的な目標は、「体を育てること」です。すなわち、「からだづくり」です。決して「体づくり運動」ではありません。「からだづくり」とは、一言で「権利意識をもち、全面発達に向かう力」のことだと考えます。全面発達を考

で誕生した「ヤマニールランド」の実践や「体力と運動能力のちがいが」「子どもの認識」などの内容を報告する予定でした。



子どものころと

からだを支え・育む養護教諭であるために

鈴木 もとみ(仁川学院)

今年度の全国研修会は残念ながら新型コロナウイルス感染症のため中止となりましたが、学校保健部会として第二回目となる今年度は、京都地区の先生方を中心に計画・準備を進めていただいております。

近年の子どもたちは、いじめ・不登校・虐待・発達障害などの複雑かつ多様化した問題を抱え、学校生活に支障をきたす児童も増加しています。このような状況の中、保健室が果たす役割も多岐に渡っており、養護教諭には高い専門的知識やコミュニケーション技術などが必要とされ

ています。そこで、今年度の研修では、学校生活を取り巻くさまざまな困り感や問題を抱えた子どもたちの現状について理解を深めるとともに、養護教諭としてどのように向き合い、どのように取り組んでいけばよいのか、実践のヒントにつながる研修会にしたいと考えておりました。

初日は「私立における学校病理の実態について」をテーマに仏教大学の原清治教授よりご講演いただく予定でした。昨今、携帯やスマートフォン

の普及により、子どものネット利用の問題も多く、人間関係や睡眠障害のトラブルからいじめや不登校などにつながるケースも増えていきます。そこでインターネットが子どもに及ぼす影響や、私立における学校病理の特徴などについて学び、ライフステージを通じた支援を行っていくために、養護教諭としてどのようなかかわりが必要なのかを考える機会とする目的でした。

二日目午前は児童虐待と養護教諭の役割をテーマに、児童相談所の職員の方より、被虐待児の特徴や、学校でよく見られる問題行動等について知り、さらに虐待の早期発見や防止の強化を図っていくために、関係

各所や校外機関とどのように連携を図っていけばよいのか学ぶ予定でした。また、地区ごとに、実際の事例を通じて学び、虐待対応のポイントを共有することも計画しておりました。二日目午後は、カラーセラピーやアートセラピーで癒しの空間作りを、三二年養護教諭として勤務され

「心が癒されるような空間」を作りたいとカウンセララーの道へ進まれた松尾季洋子先生と共に体感する予定でした。養護教諭自身がカラーセラピーを実施し心癒される時間にした

最終日は発達障害のある児童たちへの指導について読み書きのつまずきの理解と支援方法をテーマに大阪医科大学LDセンターオプトメトリストの奥村智仁先生よりご講演いただき、視力検査や色覚検査での工夫点や読み書きのつまずきが疑われる児童へのヒアリング方法など幅広く学ぶ予定でした。

どの研修も非常に学び多いもので、実施できなかったことは非常に残念です。また、現状は新型コロナウイルス感染症対策のために養護教諭として何ができるか・何をすべきかと悩みのうちに過ぎしておられる

先生方も多いことと思います。一日も早い感染終息を望み、次年度はコロナウイルスを乗り越え、心新たに良い研修会が実施されることを祈るばかりです。

学級経営部会

「つなげるつながる

学級経営」

弓削 裕之（京都女子大学附属）

今年度の学級経営部会で予定していた全国研修会の内容について報告させていただきます。テーマは、昨年度に引き続き「つなげる つながる 学級経営」。学級経営においては欠くことのできない普遍的なテーマであると考えています。今回は、フィールドワークを主軸に置いた三日間のプログラムを考えておりました。参加された先生方には、より学習者の気持ちになっていただくため、実際に学習に取り組む子どもたちと同じようにめあてと見通しを持って研修に参加していただければ

うにと企画しました。その実現のため、株式会社ドコモ様と株式会社ロイロ様にご協力いただき、一人一台タブレット端末をお配りする準備を整えておりました。

研修会における学習の目的は、研修場所である京都の魅力を自分なりの視点で見つけ、自分なりの伝え方で伝えること。題して「京都のええとこ伝えよう」です。三日間の流れを簡単に紹介させていただきます。

一日目は、学習用アプリ「ロイロノート」についての研修です。ドコモ様、ロイロ様にロイロノートの使い方を教えていただき、グループ内でロイロノートを活用した自己紹介などをしていただきます。なお、ここで知り合った同じグループの先生方が、三日間の学習を共にする「仲間」になります。

二日目は、実際に京都の町に出て自由散策。会場であるウエスティン都ホテルの徒歩圏内には、平安神宮、知恩院、京都市動物園、京都市美術館など、たくさん魅力的なスポットがあります。電車などで少し足を延ばせば、清水寺や京都国際マンガミュージアム、漢字ミュージアムなどもあります。施設に関わらず、祇

園や嵐山など京都ならではの場所に行くことも可能です。あらかじめこちらからおすすめスポットの紹介はさせていただく予定でしたが、行き先は、「京都の魅力を紹介する」というめあてを念頭に置いて、グループごとに決めていただくと思っておりました。インターネットに接続したタブレットを持ち出していただくことで、地図で調べながら散策したり、見つけた「ええとこ」を写真や動画で記録したりすることが可能な環境をご用意していました。

三日目は、フィールドワークで見つけたことを材料にした、ロイロノートを用いた発表資料づくりです。グループごとに発表をし、京都の魅力について交流します。発表後は、子どもたちの学習においても大切な営みである、学習の振り返りの時間です。学習者となった先生方へ気づきなどについて意見交流していただき、二学期からの子どもたちに返していくことができるよう深めていきます。また、ロイロノートやタブレット端末の活用方法という視点で、ドコモ様とロイロ様にご意見をいただこうと考えておりました。これまで学級経営部会では、子

もたち同士がよりよいつながりを見出すことができる教材や学習方法の提案をしてきました。今回の研修は実現しませんでした。来年度以降も、みんなで一つの目標に向かって試行錯誤する中で、仲間とつながることの喜びを実感していただけたる研修をご提供できれば幸いです。

メディア教育部会

田中 栄太郎

（日本女子大学附属豊明）

本部会で予定していた研修内容は、情報通信総合研究所ICT創造研究部特別研究員の平井聡一郎氏の講演「GIGAの目指す教育の未来（仮）」、三地区の実践報告、そして京都国際漫画ミュージアムへのフィールドワークでした。「一人一台PC」のGIGAスクール構想と、新学習指導要領で求められている主体的かつ対話的で深い学び、これらの新しい教育を我々私学が実践していくため、今必要なことは何かを考える研修になればと思いい企画を進めており

ました。また、年に一度の全国の先生方が集まるこの機会もとても楽しみにしておりますが、コロナ禍で中止が決まり、それが叶わなかったことは大変残念でなりません。

連絡を受けて関係各所に連絡をしていたところ、講演をお願いしていた平井氏からオンラインでの開催のご提案をいただきました。運営委員としても、平井氏の講演は非常に興味深く楽しみにしていましたし、夏季研修は開けなくても、せめてオンラインで講演を実現できれば、全国の先生方に情報を得る場を供することができると考えて部会の開催を事務局に相談しましたが、現状では残念ながら実施できないことになりました。(その折には多くの方々にご考慮いただきましたこと、この場を借りて感謝申し上げます。)

その後も検討を重ね、最終的には東初協のメディア教育部会として八月一八日に開催することになりました。本原稿を執筆している現在、その準備を進めております。平井氏の講演はGIGAスクール構想だけでなく、コロナ禍でのオンライン授業についても取り上げていただきます。この半年の間に大きく変わった

学習形態の功績と、今後求められる教育についてご教示いただけることと思えます。そして、講演に加えて東京、関東、西日本の各地区の先生方による実践報告も組み込み、さらに参加者同士の交流と情報交換の場を設けるべくブレイクアウトセッションも行う予定です。夏季研修のオンライン版として、先生方の知見を広げ、各校の今後に役立つ会になればと考えております。多くの方にご参加いただければ幸いです。

今年最大の禍い新型コロナウイルス感染症は、今年度に限らずこの先も私たちの生活と学習の場に大きな影響をもたらすと思われると思います。休校を余儀なくされた三月以降に、公立学校の七割はオンラインでの対応ができなかったと聞いております。しかし我々私立学校は、子どもたちの学びを止めぬよう、進み続けてきました。この経験は私学にとつての財産となると思います。

これからの学習の鍵となるのがICTであるのは間違いありません。これをどう活用するのか。メディア教育部会はこれからも考え続けてまいります。

子どもたちの未来を創るために、

人と人とのネットワークを拡げ、新しい学びを発信する部会でありたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

学校図書館部会

読書の質を高めるための

魅力ある図書館のあり方

川西 啓史 (光華)

今年度の研修は、「読書の質を高めるための魅力ある図書館のあり方」をテーマに企画させていただきました。

初日は、絵本作家ふしはらのじこ先生による講演会です。先生はザイル(現コンゴ民主共和国)で過ごされたことがあり、そこでの自然や人々の様子や社会問題等、作品の背景にある様々なことを広い視野でお話くださいます。そういった生活体験をもとに書かれた作品に「ふたごのゴリラ」があります。ふたごのゴリラとその家族の心温まるお話で、ゴリラという特定の動物の世界では

なく、人間社会にも相通じるものを感じます。先生の体験なされたことやお考え、そしてそこから生まれてくる絵本のことなどたくさんのお話を伺いたいと思っておりました。その他ヤクシマザルにまつわる絵本もあります。先生は自ら「絵」の方も手掛けておられ、絵からも様々なことを感じずにはおられません。ヒトとゴリラやサルについても興味深いお話をお伺いすることができます。他にも鳥のお話や植物のお話など我々の身近なところから共感したり、感銘を受けたり、考えさせられたりします。ふしはらのじこ先生の世界を大いに味わっていただけたらと思っております。

二日目は、フィールドワークです。「夏の京都」ということで京都の妖怪・魔界にまつわる場所巡りを考えてみました。安倍晴明に因んだ清明神社、菅原道真・土蜘蛛で知られる北野天満宮、源氏物語にも登場する「おぼろ車」の上賀茂神社を巡ります。午後は漢字ミュージアムの見学です。漢字に関するいろいろな角度から興味深く学べるところです。

三日目は、京都光華女子大学こども教育学部谷本寛文先生による講演

会を予定していました。読書教育の現状と課題から読書教育の未来について研鑽を深めていきます。図書館教育におけるハード面は整ってきたが、読書の質の高まりはどうであるかという問題や、読書人口の減少という現状から我々の進むべき方向をお示しただけならと思います。さらにパネルディスカッションも取り入れて「深い学び」とは何か。それをいざなう読書教育はどうあるべきか。そういったことを実際の取り組みをたたき台にして考える場面を予定しております。

全国の図書館教育に関わる先生方がお集りになるという貴重な機会、「京都」という場所での開催ゆえに味わっていただきたいことなどを鑑みて企画したつもりでありましたが、きつと至らぬことが多々あったことだろうと思っております。開催できなかったことは残念であります。今後、地元での研修等に活かしてまいりたいと思います。毎年、参加させていただきだけの立場でしたが、これまでの全国研で企画運営されてきた先生方のご苦勞の何分の一かを体験できた気がしましたし、改めて感謝の念が沸いてまいりました。あり

がとうございました。来年度以降もご担当の先生方、どうかお体にご留意なさってお取り組みください。私も至らぬなりに図書館教育に尽くしてまいりたいと思えます。

外国語部会

予定していた研修会の概要と次は何を目指すべきかについての考察

ノエル・モリッチ(追手門学院)

日本の全ての学校がCOVID-19の影響で一斉休校となり、先生方はビデオやその他のオンライン教材の作成へと方向を変えるざるを得ませんでした。京都で開催を予定しておりました二〇二〇年夏季研修会も、このCOVID-19による新しい現実に対応するため、他の全てのイベント同様、中止の運びとなりました。研修会の内容につきましては、既に色々なプランが決まり、講師の先生方にご協力をお願いし、ご快諾いただいております。予定していまし

た今回の研修会の概要は次の通りです。将来、今日の課題を克服する際に役立つことを願っております。

一日目午後

フォニックスの指導は、外国語学習カリキュラムにとって、大変重要です。体系的な指導方法を備えた、強力でよく編成されたカリキュラムが必要です。今年、松本容子先生をお招きし、ジョリーフォニックスのワークショップを行っていただきましょう。もともとイギリスで考案され使用されていたジョリーフォニックスシステムは、多くのユニークで革新的な方法で学生を惹きつけ、識字能力を身に付けさせています。松本先生には、総合的フォニックス学習システムの実施、導入の順序、理解を容易にするジェスチャーの使用などについて講義していただく予定です。

二日目午前

私たちは、授業で色々な教材を使ってきました。最近では、効率良く、また個々に対応した学習をするため、世界中の教師がICTを導入しています。今年の研修会では、大阪の追手門学院小学校でロボットプログラミングの授業を計画しています。タスクと説明の両方を英語で

行い、英語とICTの二つの世界を組み合わせた授業を体験していただきます。ロボットと論理的思考を必要とする課題により、今年の研修会はきつとワクワクするものになるはずです。

二日目午後

私たちは、他の先生方がどのような英語教育をされているのかを知る機会があまりありません。さまざまな地域から来られた先生方に英語プログラムに関するレポートを発表していただき、新しいプログラム、コンピュータアプリケーション、学習の傾向などを共有します。更なる情報交換のため、時間の許す限り、質問タイムも取る予定です。

三日目午前

この時間は、少人数のグループに分かれて、日頃抱えている共通の悩みや課題について話し合っていたいただきます。この話し合いを通じて学び合い、お互いに新しいアイデアを試しそうと思うきっかけになることを期待しています。最後に小グループでの討論の結果を全体で共有します。二〇二一年の研修会 COVID-19により、教材、活動、カリキュラムを再考する必要があります

ました。二〇二一年の研修会は、私たちが克服した課題と私たちが今も直面している困難に関する情報とヒントを共有する機会となるでしょう。今後、さらに学校閉鎖やリモート教育に直面する可能性がますます。その際、教師仲間の成功と失敗から学び、生徒のニーズに、より適切に対応することができるようになることを願っています。

家庭科部会

日本文化の継承

〜古き良き日本の食卓風景〜

高見 英子(四天王寺)

家庭科部会では、「日本文化の継承」を主題として、古来より受け継がれてきた日本の代表的な伝統文化に再注目し、次世代の子ども達に継承していきたいと考えています。

今まで部会で取り上げてきた「染物」「茶道」「精進料理」「組みひも」「だし料理」などには、どの文化にも深い歴史背景があります。その歴史を

ひもときながら、先人の知恵を学び、現代にどのように活かせられるのかを研修しています。

伝統文化の中で、現在、世界的にも注目されているものの一つに『和食』があります。『和食』についての研修もすすめているところです。

『和食』がユネスコの無形文化遺産に登録されてから数年がたちます。この『和食』の下敷きになったのは、「一汁三菜」というスタイルに象徴される食様式だといわれています。

日本の食文化には、大きく二つの転機があると言われています。一つは縄文時代の終わり頃から弥生時代にかけて稲作が伝来したとき。そしてもう一つは、戦後から高度成長期にかけてです。

約一〇〇年ほど前の日本人の食卓には、当時使われていた『箱膳』といわれるお膳が広く使われていました。そのお膳には一汁一菜(主食のご飯とお椀の汁物、おかずの二菜)と香の物がありました。

箱膳からちゃぶ台、テーブルへと移り、一人ひとりのお膳から大皿で盛られる食事形態へと移りました。『和食』が、米中心の主食に加え、魚や海藻、貝類が多い食事から保存

がきく食事へと大きく変わっていき、現在の「一汁三菜」の形になっていったという背景を、私達は理解しておかなければなりません。

今年度の夏季研修会では、一日目には、東京地区からは「成蹊小学校の長きにわたる発酵学習」と題して、毎年受け継がれているみそ作りについて、寺井先生、鈴木先生、山本先生より提案発表をしていただく予定でした。

関東地区からは慶應義塾横浜初等部の三浦先生より「生き方科」の中で「家庭科」と題して、教科の枠を越え、暮らしの中にどう家庭科を生かしていくのかといった、取り組みの内容を教えてくださいました。

二日目三日目には、西日本地区より「京都のおばんざい」に焦点をあてて、家庭で簡単に作れるおかずの作り方を体験実習する予定でした。

また、大阪で創業一七〇年の製茶本舗の茶鑑定士さんに来ていただき、普段の家庭生活の中でのおいしいお茶の淹れ方を実習する予定でした。

来年度に向けて、より一層、私達が世界に誇れる日本文化を家庭科部会から発信できるように、研修を深めていきたいと思えます。

生活・総合部会

大喜多 嘉(追手門学院)

今年度の夏季研修会は、西日本地区の担当でウェスティン都ホテル京都にて開催予定でした。西日本地区の担当者は九年ぶりに日本有数の観光地である京都で開催される研修会に向けて、皆様に充実した研修を行っていただくべく準備を進めて参りましたが、その願いを叶えることができず、大変残念に思っております。準備を下さった講師の方や先生方に、この場をお借りして、感謝とお詫びを申し上げます。

以下、夏季研修会で発表予定であった内容を現時点でわかる範囲で書かせていただきます。

①講演(西日本地区)
演題「だんごむしのひみつ」

山内 泉先生

(神戸海星女子学院)

ダンゴムシは身近にいる、児童からも大変人気のある生き物です。今回、そのダンゴムシの生態についてより詳しく知っていただき、面白さ

について共有していただくことを楽しみにしていました。また、今までに実践した綱渡りやレース、居場所マップの作成等の紹介を通して、皆様と新たな授業案について考え、最後にはダンゴムシの習性を生かしたダンゴムシ迷路を皆様とともに作って楽しんでいただく予定でした。

②発表(関東地区)

尾形 理先生
演題「たてわりで育てたい力」

(七沢希望の丘)

二〇二一年の開校以来続く、「ノングレードオープン」という教育方針と、小規模校という特色をもとに、全学年合同・縦割り活動を中心とした総合学習について紹介し、総合学習を中心としたカリキュラムの概要と、約十年間の歩みのなかで培ってきた「リーダー力」、またその現状の課題とそれに対するアプローチなどを発表予定でした。

③発表(東京地区)

下谷 明子先生
(元白百合学園)

東京だから、ダンゴムシぐらしか飼えないという常識を破り、ダンゴムシだからこそ、ここまで追究できるという授業を紹介できるはずで

した。しかも、不登校になりがちな児童も巻き込んで、学級経営的にも素晴らしい実践でありましたので残念です。

④発表(九州地区)

江上 沙和子先生
(長崎南山)

住宅地の中にあり、限られた中でも南山っ子は、自然の中で遊ぶことが大好きです。今回は、身近な自然との関わりの中で感じた面白さや不思議さを、友達と伝え合い活動を工夫していこうとする様子を実践を交えながら報告する予定でした。

⑤講演

島津製作所「え〜こクラブ」

一九九九年に誕生した、島津製作所の環境活動チームです。環境教育の啓発を目的として、京都地区の小中学生を中心に出席授業を通して、環境問題について分かりやすく説明されています。

今回は、その活動内容を先生方にご紹介いただく予定でした。

⑥フィールドワーク

京都ハンディクラフトセンターにて、京都の伝統工芸品の製作体験を予定していました。

学校劇部会

「劇でアクティブ・ラーニング」
〜次は、みんなで創り上げる
楽しさを体感しよう〜

保坂 弘之(成城学園)

「ほっちゃん」「リリー」「しようちゃん」・・・、夏季研修会のホテルの懇親会会場で、名札の裏に、手書きで、こんなことが書いてある人を見つけたら、その人は、学校劇部会参加の人です。

学校劇部会では、「〇〇先生」という呼び方は原則しません。だって、教室の子どもたちは、お互いに上下関係は、無いですから。会場も机を端に寄せてしまうので、机に向かって発表者の話を聞くということもありません。それは、参加者が体験することを重視しているから。

他の部会とは、ちょっと違う学校劇部会は、西日本地区での三回目の全国夏季研修会開催でした。研究主題は、「劇でアクティブ・ラーニング」みんなで創り上げる楽しさを体

感しよう〜」。

「劇の発表会があるので、指導法を知りたい」「学習成果を劇的な活動で発表してみたい」「教科学習の中で劇的活動を取り入れてみたい」「学級経営で何か取り入れられるものはないかな」と、こんなことを考えている方、さらに「何か劇は苦手。」「敷居が高い。」「自分はちょっと引いてしまう。」そんな方にも参加してほしいです。

第一日目のテーマは「学校劇部会へようこそ」ゲームではじめる劇づくり〜」

最初は、「仲間づくりと表現のための楽しいゲーム一〇選」。

いわゆるアイスブレイク。初めての出会いの場での、緊張ほぐし。子どもたち同士でも同じです。学校劇部会では、まずお互い知り合うことを大切にします。ここで、最初に書いた名札の登場なのです。もちろん、本名でも良いのだけれど、ニックネームでもなんでも、呼んでもらいたい名前を書いてもらい、期間中は、裏に書いた名前で呼び合います。年齢、職場、劇経験の有無、関係なく、すぐに笑顔になれます。次の各地区からの活動の報告で

は、西日本地区、関東地区、東京地区、それぞれの活動の報告。その中のいくつかは、実際に体験してみても、参加者の皆さんで共有予定でした。

第二日目は、「劇の楽しさ再発見」として、「表現する楽しさを体験する」ワークシヨップ。ドラマタイーチャーとして活躍されている追手門学院高校表現コミュニケーションコース教諭、いしのみちこ先生に講師をお願いしました。

午前、午後を通して、演劇体験初心者も、経験者も関係なく、貴重な体験ができたはずでした。

第三日目は、「創る楽しさ・つながるよろこびを子どもたちへ」京都市文教短大付属小学校の挟間理沙先生による実践報告「舞台発表」音読ランドへようこそ！』の取り組み。一年生の国語の学習を学習発表会で舞台発表した取り組みの様子と、舞台発表の様子を報告を予定していただきました。

そして、感想交流として三日間の振り返りをします。「もっと活動してみたい」「早く、子どもたちと実践してみたい」来年も、そんな感想が出る部会にしたいと思っています。是非、ご参加を待っています。



全国教頭研修会について

下釜 誠顕(近畿大学附属)

本年度の全国教頭研修会は、西日本地区(奈良地区)の担当で八月二十日(木)と二十一日(金)の二日間開催する予定でした。今年度は奈良市で研修のプログラムを組んでいました。

【二日目】八月二十日(木)

研修初日は二つの案があり、どちらかを行う予定でした。

研修案1の①

◎一四時にホテル日航奈良にて受付講演「東大寺二月堂修二会について」東大寺二月堂修二会(お水取り)の練行衆を務めておられる上野周信先生(東大寺学園常務理事・東大寺学園幼稚園園長)を講師にお招きし、東

大寺二月堂の「お水取り」についてお話ししていただくと考えていました。

研修案1の②

◎一四時に帝塚山小学校にて受付講演・体験 帝塚山小学校を会場としてお借りし、帝塚山大学の先生をお招きして近年の教育問題等に関する講演または体験活動を実施していただくと考えていました。

最終案がまとまらない形でのお知らせになり、大変申し訳ありません。

◎一八時～二十時

懇親会(ホテル日航奈良宴会場)

※懇親会閉会后、有志にて二次会を行う予定でした。(奈良駅近辺)

※宿泊は宴会場と同じ「ホテル日航奈良」を確保していました。

【二日目】八月二十一日(金)

◎ホテルよりバスにて東大寺に移動 研修案2

「東大寺大仏殿」と「東大寺ミュージアム」の見学

二月堂修二会(お水取り)の練行衆

を務められている上野周信先生や平岡慎紹先生の案内で東大寺大仏殿の大仏様(盧舎那仏)の台座の上に乗っていただき、間近で大仏様を見ていただくようと考えていました。その後、平成二十三年に開館された「東大寺

ミュージアム」の見学を行う予定でした。

今年度の全国夏季研修会は京都で行われる予定でしたので、奈良まで少し足を延ばしていただき、奈良の都の象徴ともいえる「東大寺」の見学を中心に研修を行っていただく予定でした。

全国の先生方は、今回のコロナウイルス感染防止の対策や休校措置の対応のためにお忙しくされておられることと存じます。この状況が収束して、落ち着いた学校生活ができるようになってほしいと皆さんも願っております。

安心して旅行ができるようになれば、ぜひ東大寺のある奈良県を訪れていただければと思います。

全国の運営委員(敬称略)

- 北海道・東北地区
- 中津真貴子(桜の聖母学院)
- 東京地区
- 中江 正司(明星)
- 関東地区
- 馬場 淳(桐光学園)
- 九州地区
- 龍 達也(敬愛)
- 西日本地区
- 下釜 誠顕(近畿大学附属)

事務局から

令和2年度日私小連定期理事会(書面・オンライン会議)報告

6月12日(金)令和2年度日私小連定期理事会(書面会議)が開催されました。新規加盟校ならびに令和元年度事業等報告と令和2年度事業等計画が賛成多数で承認されました。引き続き役員の変動に伴う役員改選が行われ、6月19日(金)日私小連定期理事会(オンライン会議)に於いて、顧問・会長・副会長が選任されました。

詳細は、各学校にお届けしました令和2年度定期理事会報告書をご覧ください。

令和2年度 日本私立小学校連合会役員

| 地 区 名 | 役 職 名 | 氏 名 | 学 校 名 |
|-----------|---------|---------|---------------|
| 東 京 | 顧 問 | 小 泉 清 裕 | 昭和女子大学 |
| 〃 | 会 長 | 重 永 睦 夫 | 東京都市大学附属小学校 |
| 〃 | 副 会 長 | 中 村 貞 雄 | 青山学院初等部 |
| 関 東 | 〃 | 斎 藤 滋 | 桐光学園小学校 |
| 西 日 本 | 〃 | 山 北 浩 之 | 城南学園小学校 |
| 北 海 道・東 北 | 〃 | 土 井 智 子 | 聖ドミニコ学院小学校 |
| 九 州 | 〃 | 堀 奈 緒 美 | 敬愛小学校 |
| 東 京 | 常 任 理 事 | 木 村 修 二 | 武蔵野東小学校 |
| 〃 | 〃 | 横 山 豊 治 | 清明学園初等学校 |
| 〃 | 〃 | 島 野 歩 | 文教大学附属小学校 |
| 〃 | 〃 | 南 部 浩 士 | 田園調布雙葉小学校 |
| 〃 | 〃 | 小 島 理 恵 | 目黒星美学園小学校 |
| 〃 | 〃 | 佐 藤 有 子 | 自由学園初等部 |
| 〃 | 〃 | 田 中 均 | 東京女学館小学校 |
| 関 東 | 理 事 | 岡 崎 一 実 | 関東学院小学校 |
| 〃 | 〃 | 大 野 達 夫 | 精華小学校 |
| 西 日 本 | 〃 | 柘 津 芳 信 | 甲南小学校 |
| 〃 | 〃 | 森 田 哲 | 近畿大学附属小学校 |
| 〃 | 〃 | 井 上 恵 二 | 追手門学院小学校 |
| 北 海 道・東 北 | 〃 | 武 藤 浩 之 | 桜の聖母学院小学校 |
| 九 州 | 〃 | 森 日 出 夫 | 明星小学校 |
| 東 京 | 監 事 | 山 口 博 子 | 日本女子大学附属豊明小学校 |
| 関 東 | 〃 | 田 川 信 之 | 森村学園初等部 |

令和2年度 日私小連 研究部委員長

| No. | 部 会 名 | 委 員 長 | 学 校 名 |
|-----|-------|-----------|----------|
| 1 | 国 語 | 安 達 真 理 子 | 立教小学校 |
| 2 | 社 会 | 東 原 秀 郎 | 国立学園小学校 |
| 3 | 算 数 | 時 川 郁 夫 | 森村学園初等部 |
| 4 | 理 科 | 天 井 比 呂 | 雲雀丘学園小学校 |

| No. | 部 会 名 | 委 員 長 | 学 校 名 |
|-----|-------------|-----------|---------------|
| 5 | 音 楽 | 山 崎 菜 央 | 京都女子大学附属小学校 |
| 6 | 図 工 | 前 田 真 偉 子 | 城星学園小学校 |
| 7 | 体 育 | 綾 田 満 成 | ノートルダム学院小学校 |
| 8 | 学 校 保 健 | 鈴 木 も と み | 仁川学院小学校 |
| 9 | 学 級 経 営 | 弓 削 裕 之 | 京都女子大学附属小学校 |
| 10 | メ デ ィ ア 教 育 | 田 中 栄 太 郎 | 日本女子大学附属豊明小学校 |
| 11 | 学 校 図 書 館 | 川 西 啓 史 | 光華小学校 |
| 12 | 外 国 語 | ノエル・モリッチ | 追手門学院小学校 |
| 13 | 家 庭 科 | 高 見 英 子 | 四天王寺小学校 |
| 14 | 生 活 ・ 総 合 | 大 喜 多 嘉 | 追手門学院小学校 |
| 15 | 学 校 劇 | 保 坂 弘 之 | 成城学園初等学校 |

令和2年度 理事長・校長等の異動

1. 理事長・校長の異動(敬称略)

| No. | 学 校 名 | 理 事 長 | | 校 長 | |
|-----|-------|-------|-------|-----|-------|
| | | 新 任 | 前 任 者 | 新 任 | 前 任 者 |

東京地区

| | | | | | |
|----|---------------|-------|-------|-------|-------|
| 2 | 雙葉小学校 | - | - | 渡部 祐子 | 河野久仁子 |
| 5 | 東洋英和女学院小学部 | 増 淵 稔 | 大 宮 溥 | - | - |
| 7 | 学習院初等科 | - | - | 大澤隆之 | 酒井竹雄 |
| 8 | 日本女子大学附属豊明小学校 | 今市涼子 | 蟻川芳子 | - | - |
| 14 | 聖ドミニコ学園小学校 | 山崎昭彦 | 宮城千鶴子 | - | - |
| 22 | 慶應義塾幼稚舎 | - | - | 杉浦重成 | 武田敏伸 |
| 26 | 新渡戸文化小学校 | 平岩国泰 | 豊川圭一 | 杉本竜之 | 朝倉寿夫 |
| 33 | 淑徳小学校 | - | - | 松本 太 | 多田元樹 |
| 38 | 武蔵野東小学校 | - | - | 石橋恵二 | 木村修二 |
| 51 | 国立学園小学校 | - | - | 佐藤純一 | 児玉宏之 |
| 52 | 国立音楽大学附属小学校 | - | - | 千木良康志 | 星野安彦 |
| 54 | 帝京大学小学校 | - | - | 石井卓之 | 矢野英明 |

関東地区

| | | | | | |
|-----|-------------|-------|-------|-------|-------|
| 57 | 青山学院横浜英和小学校 | 伊藤美奈子 | 山根 誠之 | - | - |
| 64 | 桐蔭学園小学校 | - | - | 森 朋子 | 澤本 敦 |
| 65 | 慶應義塾横浜初等部 | - | - | 尾上義和 | 近藤由紀彦 |
| 72 | 湘南学園小学校 | - | - | 岸田修成 | 河本洋子 |
| 73 | 湘南白百合小学校 | 荻原 禮子 | 水原洋子 | 谷口貞女 | 澤野 誠 |
| 80 | 相模女子大学小学部 | 佐々木勝洋 | 谷崎昭男 | 川原田康文 | 竹下昌之 |
| 82 | 七沢希望の丘初等学校 | 仲 早百合 | 小島富司 | - | - |
| 94 | さとえ学園小学校 | 田中淳子 | 森山憲一 | - | - |
| 104 | 暁星国際小学校 | 田川 茂 | 平出和也 | - | - |
| 105 | 暁星国際流山小学校 | 田川 茂 | 平出和也 | - | - |
| 106 | 久慈川三育小学校 | - | - | 松坂世施富 | 山本幹雄 |
| 109 | 江戸川学園取手小学校 | - | - | 鈴木克己 | 若林富男 |

西日本地区

| | | | | | |
|-----|-------------------|---------|---------|---------|---------|
| 111 | 須磨浦小学校 | - | - | 岩 渕 正 文 | 山 本 義 和 |
| 126 | 城星学園小学校 | - | - | 奥 栄三郎 | 亀 谷 和 廣 |
| 132 | 賢明学院小学校 | 高 島 政 行 | 中 西 美 繪 | - | - |
| 134 | P L 学園小学校 | - | - | 鳥 居 正 哉 | 小 野 寺 正 |
| 135 | 四天王寺小学校 | - | - | 花 山 吉 徳 | 吉 田 晃 |
| 138 | 金剛学園小学校 | 崔 潤 | 趙 栄 吉 | - | - |
| 142 | 近畿大学附属小学校 | 世 耕 弘 成 | 清 水 由 洋 | - | - |
| 145 | ノートルダム学院小学校 | - | - | 原 山 稔 郎 | 田 中 範 子 |
| 148 | 光華小学校 | 阿 部 恵 木 | 阿 部 敏 行 | - | - |
| 149 | 京都文教短期大学付属小学校 | 仁 科 周 朗 | 富 田 謙 三 | - | - |
| 151 | 一燈園小学校 | - | - | 村 田 俊 喜 | 相 大 二 郎 |
| 155 | 暁小学校 | - | - | 牧 好 生 | 水 谷 浩 三 |
| 156 | 岐阜聖徳学園大学附属小学校 | - | - | 水 谷 啓 | 桑 原 常 晴 |
| 159 | ノートルダム清心女子大学附属小学校 | - | - | 西 弘 子 | 服 部 和 也 |
| 166 | 英数学館小学校 | - | - | 永 留 聡 | 藤 井 良 明 |

北海道・東北地区

| | | | | | |
|-----|-------------|---|---|---------|-----------|
| 175 | 仙台白百合学園小学校 | - | - | 早 坂 博 之 | 渡 辺 瑞 穂 |
| 179 | 桜の聖母学院小学校 | - | - | 武 藤 浩 之 | 川 田 紀 美 子 |
| 180 | 郡山ザベリオ学園小学校 | - | - | 佐 藤 祐 也 | 滝 田 文 夫 |

九州地区

| | | | | | |
|-----|----------|---|---|---------|-----------|
| 185 | 明星小学校 | - | - | 森 日 出 夫 | 上 村 も と 子 |
| 190 | 鹿児島三育小学校 | - | - | 草 野 知 子 | 鈴 木 信 治 |

2. 新加盟校

東京地区

東京シュール江戸川小学校 理事長：奥地 圭子 校長：奥地 圭子
〒133-0057 東京都江戸川区西小岩2-4-1

3. 校名変更

東京地区

小野学園小学校→品川翔英小学校

関東地区

横浜英和小学校→青山学院横浜英和小学校
桐蔭学園小学部→桐蔭学園小学校

4. 所在地等変更

関東地区

恵明学園小学校 〒250-0404 神奈川県足柄下郡箱根町宮ノ下413

訃 報

小竹 正一 様(元日私小連副会長・元雙葉学園理事) 8月10日、逝去。94歳。

葬儀ミサ・告別式はカトリック麴町聖イグナチオ教会で行われました。

ご生前のご厚情に深く感謝するとともに、ご功績を偲び、ご冥福をお祈り申し上げます。

2020年代の教育宣言

2020年代、私たちは多くの節目を迎えます。学制施行から150年。「大正新教育・八大教育主張講演会」から100年。私立学校振興助成法公布から50年。殊に1941年、国民学校令に合わせた私立小学校廃止の動きから「初等学校」の灯を守り、日本私立小学校連合会が産声をあげて80年となります。これらの節目において常に私立小学校は存在感を示してきました。この歴史に誇りをいただき「一年樹穀、十年樹木、百年樹人」と言った古人にならない、私たちは新たな百年に向けて人を育てる営みを続けます。

2020年代は、人工知能(AI)の想像もつかない発達等によって劇的な社会変革を迎えると言われます。しかし、この潮流の中だからこそ、より人間らしく生きることを疎かにしない心と学力を育てる教育が私立小学校に求められています。

そのために、私たちは、

- 一、それぞれの建学の精神に則り多様な特長をもつ学校群として、伝統を重んじつつ、自由と人権、児童一人一人の個性を尊びます。
- 一、児童愛をかたときも離さず、児童の内なる可能性を引き出す方法を実践・探求します。
- 一、未来を切り拓く資質と心豊かな人間性を育成します。
- 一、真の世界平和と持続可能な環境の維持をめざして、広い視野をもって考え、共感する心や他者尊重の心を育みます。

私たちは、新たな時代に向けて私学人としての自覚を持ち、お互いに磨き合い、我が国初等教育の新たな創造をめざすことをここに宣言します。

2020(令和2)年 6月12日

日本私立小学校連合会